

5 RINK釧路まちづくりラボの展開（案）

市が考える公民連携について説明します。

5-2 釧路都心部まちづくり計画（基本構想編）での公民連携

市では平成31年3月末に、**釧路都心部まちづくり計画（基本構想編）**を策定しました。この計画は、釧路市の「顔」として、また、ひがし北海道の玄関口として、**市民、民間事業者、行政**が目指す都心部の将来の姿を共有し、連携して都心部の活性化に取り組むための指針となるものです。この計画の中で、将来像の実現に向け、まちづくりの方針と施策の方向性をまとめていますが、その中で**特に公民が連携する取組み**について、下表に整理しました。

今後のラボの意見交換の中では、この内容を中心に民間プレイヤーの皆さんと議論していきたいと考えています。

基本構想編による公民連携の取組み一覧表

基本構想編における施策の方向性	想定される取組内容 ^(注)	想定されるキーワード ^(注)
①商業機能等の事業活性化に向けた取組み	専門店、飲食店の創業支援、経営支援	釧路らしさ 若者、女性、シニア世代の活躍の場
②商業・業務機能の利便性向上を図る環境づくり	専門店、飲食店の創業支援、経営支援、イベントの開催、イメージアップ、競争力強化、賑わいの創出	釧路らしさ 若者、女性、シニア世代の活躍の場、空き地・空き建物等の遊休不動産の再生
③既存ストック活用、公共施設の複合化、店舗の共同化等による都市機能の更新	イベントの開催、イメージアップ、競争力強化、賑わいの創出	空き地・空き建物等の遊休不動産の再生
④公共空間等を活用したおもてなしと交流の場づくり	広域的都市機能の誘導	公共施設等の集約化・複合化 コンパクトなまちづくりの推進
⑤食を楽しむ魅力的な空間づくりと市民、観光客が集まる賑わいの場づくり	地元食材を活用した食の提供 食と風景を楽しめる空間づくり 食の魅力向上とブランド化推進 食の観光地としてのイメージ向上	釧路ならでは 「何度訪れても、いつ訪れても美味しい釧路」
⑥住宅ストックを活用した長期滞在者等の受け入れ物件の確保	長期滞在事業を推進 二地域居住や移住の促進	気候特性の活用 (冷涼、小雪、花粉ゼロ)
⑦賑わいを創出する歩行空間の利活用促進と公共交通の再編	観光案内等の利便性やサービス向上 観光ブランド力の向上 憩い・滞在の空間・環境づくり	地産飲食 (フードコートなど)

(注) 想定される【取組み内容】や【キーワード】については、まちづくりラボとしての取組みを念頭に置いたものであり、公共交通や社会基盤に関連するものには触れていない。

RINK釧路まちづくりラボ
都心部の衰退から都心部の活性化を考える(2019.12)
事務局 釧路市総合政策部 都心部まちづくり推進室
〒085-8505 釧路市黒金町7丁目5番地
TEL : (0154) 23-5151 FAX : (0154) 25-8149
E-mail : to-toshinbu@city.kushiro.lg.jp

未定稿

リンク

RINK 釧路まちづくりラボ

Re:Innovation to Next generation , central Kushiro

～次世代に向けた釧路都心部のリ・イノベーション～

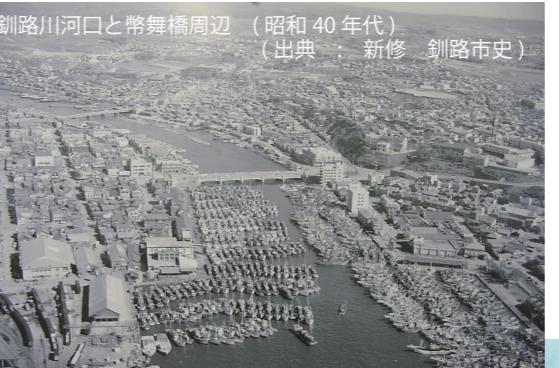
都心部の衰退の原因から都心部の活性化を考える

RINK 釧路まちづくりラボは、都心部の活性化に向け実際に活動されている民間プレイヤーの皆さんにお集まり頂き、まちづくりの担い手の巻き込みや発掘を行うこと、また活性化に向けたテーマ出しやアイディアを頂くことを目的に設置しました。

令和元年5月に開催した第1回目のラボでは、(都心部の衰退の原因を把握し、その上で、既存の「もの」の掘り起こし、新しい「もの」の発掘を行うべきである)というご意見を頂きました。また、若い人たちには、「まち」と呼ばれた頃の都心部の賑わう姿を知る人は少ないと思います。

そこで事務局では、かつて多くの人が賑わった都心部の状況を振り返りながら、「なぜ都心部は衰退したのか」その背景を人口の増減やまちづくりの視点から探ると共に「そこから導き出せるキーワード」「都心部を活性化させる必然性」「都心部の活性化に向けたフロー(案)」「RINK釧路まちづくりラボの展開(案)」などについて整理しました。

1 都心部の成り立ちと都市の郊外部への拡大(戦後の高度成長期から昭和末期のイメージ)



釧路川河口と幣舞橋周辺（昭和40年代）
(出典：新修 釧路市史)

○釧路(都心部)は釧路川河口部に発展。都心部は人々の暮らしを支えている状態。

○人々の居住や往来が商機となり、暮らしに関する商業はもとより、娯楽、趣味に関する商業が発達。

○堅調な景気と基幹産業、相次ぐ百貨店の開業。



○自動車社会の到来による近隣自治体からの交流人口増加。

○都心部はひがし北海道を代表する賑わいの拠点に発展。

○定住人口の爆発的な増加により、郊外に都市を拡大する都市計画の策定。

【都市の物理的な問題解消】



※郊外部にニュータウン等が造成

市民

【人間の本能的欲求】

○郊外の戸建ての暮らしにより、ゆとりある生活を享受。
○暮らしに必要な機能を遠くより近くに求める。

変化

【人間の合理的な行動】

○利便性の向上のため、ニュータウン内にスーパーなどが進出。(商機が移転)

結果

○暮らしや趣味・娯楽を支える機能が、都心部から郊外に移転する契機。
○郊外のスーパーのショッピングモール化。

2 都心部の衰退 (平成のイメージ)

↓ 航空写真の変遷から見る都心部の状況



3 都心部の活性化の必然性

3-1 なぜ、都心部に賑わいを取り戻すのか？

都心部よりも郊外で賑わいを創出した方が効率的ではないのか？

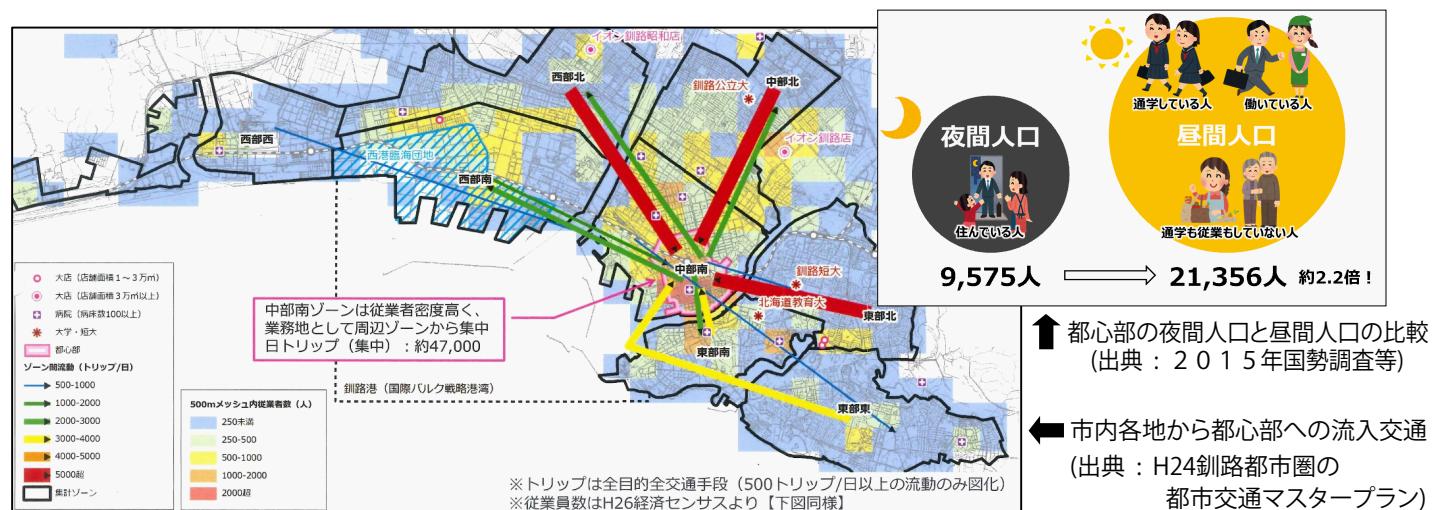
都心部は釧路の「かお」

定性的

市民の郷愁・土着の場所 来訪者が訪れる場所

定量的

公益公共機関が集積 各地から人が来訪 (昼間人口は夜間と比較して約2倍)



事務局では都心部の「昔」と「今」の状況を誰が見てもわかるように航空写真で比較しました。

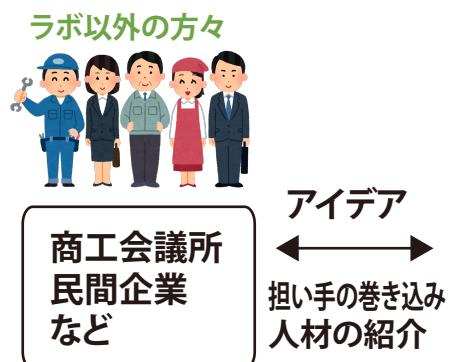
↑ 事務局では都心部の「昔」と「今」の状況を誰が見てもわかるように航空写真で比較しました。

5 RINK釧路まちづくりラボの展開(案)

ここではラボの展開について説明します。

5-1 ラボの組織と展開

RINK 釧路まちづくりラボには、実際に市内で活躍されている民間プレイヤーの皆さんを中心参加頂いておりますが、市ではもっと広く市民の皆さんに議論を広めるため、民間プレイヤーの皆さんに対し、個人的につながりのある方々にも**身近な場所で議論を行**いその結果をラボにフィードバックしていただくよう、協力をお願いしています。



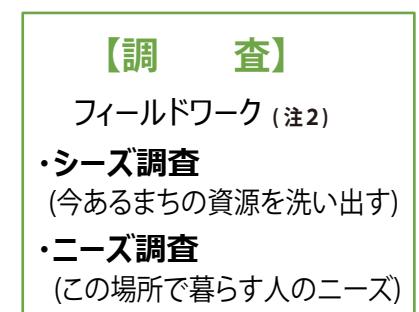
RINK 釧路 まちづくりラボ

- ▼まちづくりラボ メンバー
 - 市内で活躍する民間プレイヤー
 - 商工会議所
 - 釧路公立大学など
 - 事務局 都心部まちづくり推進室

ラボのテーマ毎に必要なメンバーにご参加いただく予定。



展開

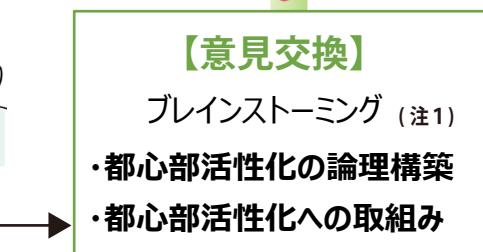


【調査】

- フィールドワーク (注2)
 - ・シーズ調査
(今あるまちの資源を洗い出す)
 - ・ニーズ調査
(この場所で暮らす人のニーズ)

(注2)

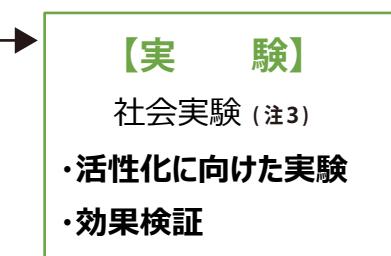
あるテーマに即した場所を実際に訪れ、直接調査を行ったり関係者に聞き取りやアンケート調査を実施し、客観的なデータを集めること。



【意見交換】

- ブレインストーミング (注1)
 - ・都心部活性化の論理構築
 - ・都心部活性化への取組み

(注1)
あるテーマについて、メンバー同士でざっくばらんに自由なアイデアを出し合うことで、新しい発想や方法などを導き出すこと。



【実験】

- 社会実験 (注3)
 - ・活性化に向けた実験
 - ・効果検証

(注3)
新たな施策を導入する際、場所と期間を限定して試行することで、有効性を確認したり、問題点を把握すること。

都心部の活性化に向けた効果的な方法(取組み)の構築

民間プレイヤーの皆さんと、意見交換・調査・実験を繰り返しながら、都心部の活性化に向けた検討を進めていきます。

